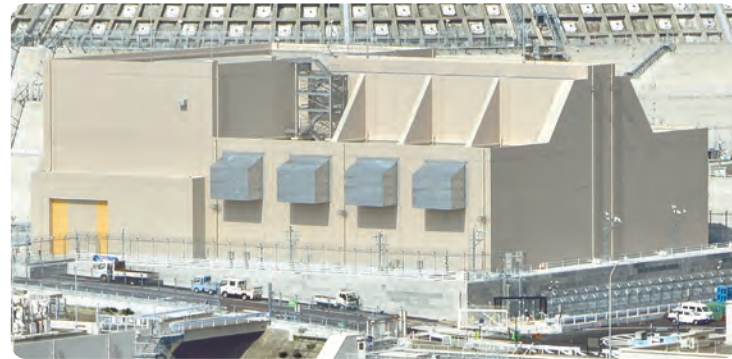


# 伊方発電所の状況について

## 使用済燃料乾式貯蔵施設の運用を開始

使用済燃料乾式貯蔵施設は、伊方発電所で発生した使用済燃料を青森県六ヶ所村の再処理工場へ搬出するまでの間、発電所敷地内で一時的に貯蔵する施設で、本年7月に運用を開始しました。

本施設では、使用済燃料ピット(プール)で十分に冷却した使用済燃料を、「乾式キャスク」と呼ばれる金属製の頑丈な容器に収納・密封して安全に貯蔵し、電気や水を使わず、空気の自然対流で冷却することができます。



使用済燃料乾式貯蔵施設の外観  
(2025年7月現在)



使用済燃料は金属製の頑丈な容器(乾式キャスク)に収納

## よくいただく質問

**Q** 乾式キャスクの中の使用済燃料は、ずっと伊方発電所に保管するの？

**A** 乾式貯蔵施設は、使い終わった燃料を再処理工場に搬出するまでの間、一時的に貯蔵するための施設であり、伊方発電所に使用済燃料を保管し続けることはありません。

**Q** 地震や津波が来ても大丈夫なの？

**A** 大規模な地震が来ても、キャスクが転倒したり、施設の安全性が損なわれないよう対策を講じています。また、津波対策として、敷地内の高台(海拔25m)に設置するなど、自然災害への対策も行っています。

## 1、2号機の廃止措置について

全体工程を4段階に区分し、約40年間かけて作業を実施する計画で、現在、第1段階として、設備の汚染状況の調査や、放射線管理を必要としない区域の設備を解体、撤去しています。引き続き、安全を最優先に着実に進めてまいります。



撤去前



撤去後

2号機 主給水ポンプの撤去状況

【お問い合わせ先】(平日9時～17時)

四国電力株式会社 原子力本部 エネルギー広報グループ TEL:089-946-9730  
伊方発電所 広報課 TEL:0894-39-1701

2025年8月作成

# 地域の皆さまへ

皆さまには、日頃より四国電力の事業運営にご高配を賜り、誠にありがとうございます。

昨年、伊方発電所3号機は、運転開始から30年を迎えました。

今日まで運転を続けてこられましたのは、地域の皆さまからのご理解とご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

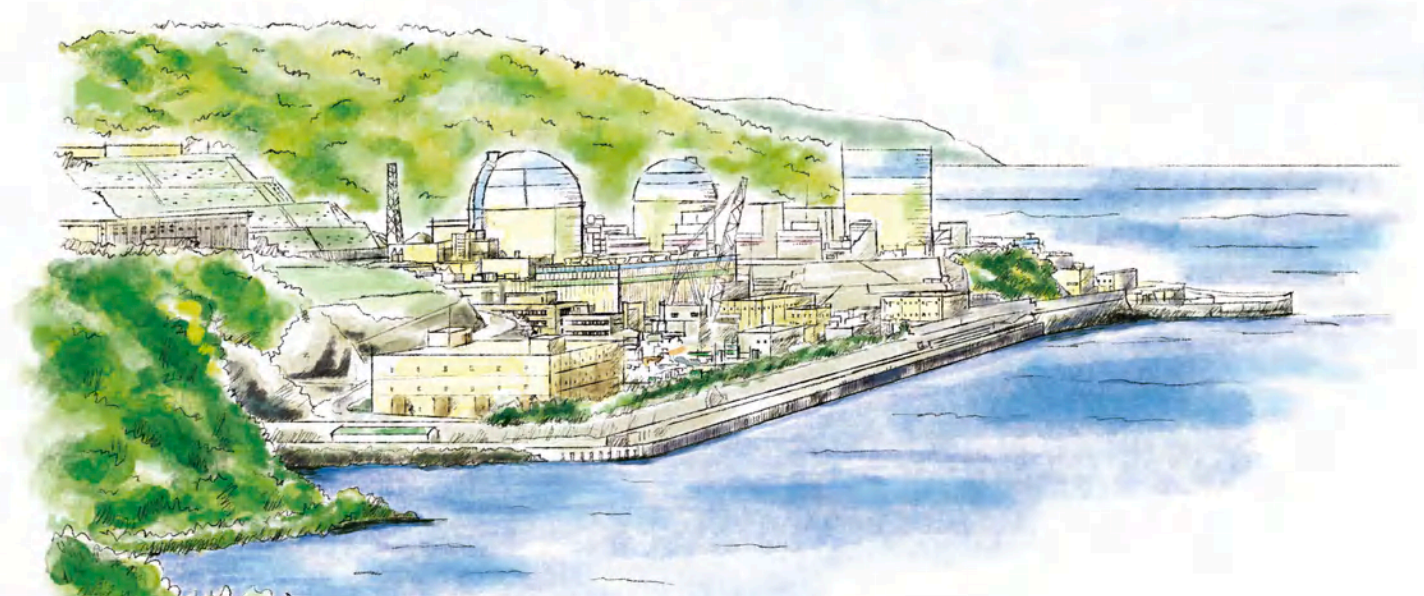
3号機は、運転開始40年までに実施すべき保全活動を定めた長期施設管理計画について、本年3月に国から認可をいただきました。当社としては、本計画に基づき、設備の高経年化への対策等を着実に実施し、さらなる安全性・信頼性の向上に不断の努力を積み重ねてまいります。

そして、今後も安全・安定運転を継続していくとともに、発電所に関する情報を迅速かつ丁寧に分かりやすく発信していくことで、皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指してまいります。



四国電力株式会社  
取締役社長 社長執行役員

宮本 喜弘

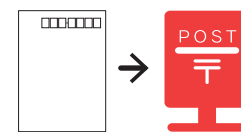


四国電力では、伊方発電所に対する皆さまのご不安や疑問の声に少しでもお応えできるよう、社員が各ご家庭を訪問し、直接ご意見・ご質問をお伺いする活動を継続的に行ってまいります。

本日は、伊方発電所の現状に関するリーフレットをお届けにまいりました。

リーフレットの内容に関するものをはじめ、伊方発電所について日頃からお気づきの点やご質問などがございましたら、以下の方法でお寄せいただくと幸いです。

同封の郵便ハガキ



電子メール

chiiki-voice@yonden.co.jp



お電話

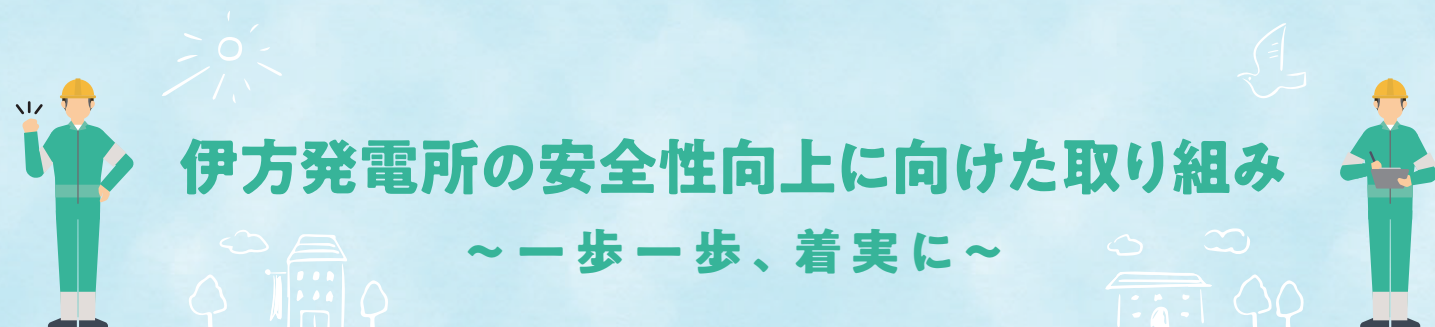
0120-459-796

10月31日(金)まで※の9時～17時  
※10月12日～31日は平日のみ



四国電力株式会社

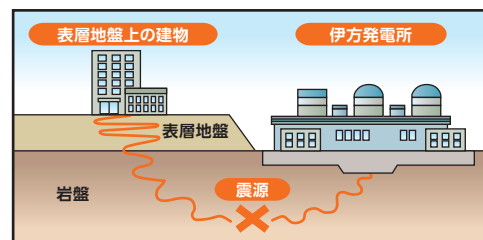




## 巨大地震に備えた対策

伊方発電所では、南海トラフ地震をはじめとした巨大地震を想定して、基準地震動を設定するとともに、さまざまな安全対策を行っています。

- ▶ 伊方発電所の安全上重要な建物は、強固な岩盤上に直接設置されています。そのため、これらの建物が受ける地震の揺れは、軟らかい表層地盤上の建物に比べて1/2～1/3程度となります。

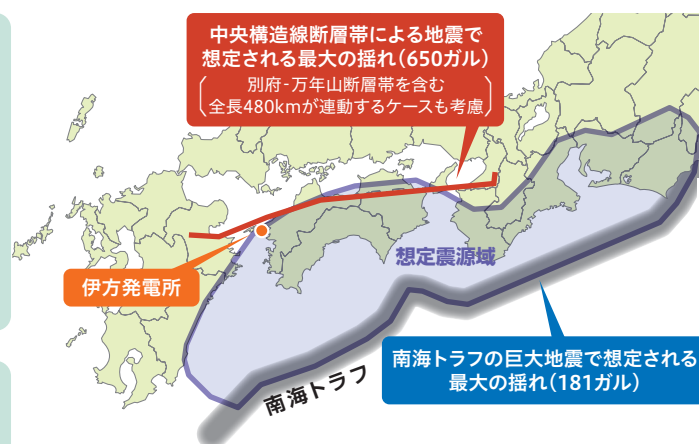


岩盤上に設置した伊方発電所と  
表層地盤上の建物との揺れの伝わり方の違い

## よくいただく質問

**Q** 伊方発電所では最大でどのぐらいの揺れを想定しているの？

**A** 最も影響があると想定される中央構造線断層帯による地震について、最大規模の揺れを基準地震動(650ガル)として設定し、この基準地震動を基に、耐震性を確保しています。



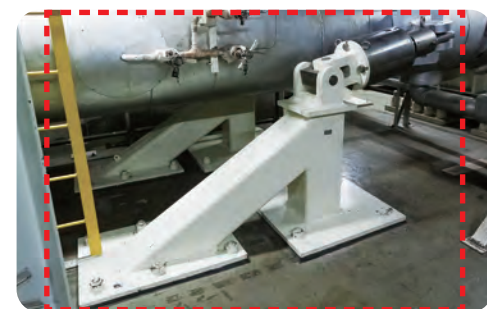
**Q** 南海トラフ地震が起こっても伊方発電所は大丈夫なの？

**A** 南海トラフ地震の想定震源域のうち、伊方発電所に影響を与える震源域は地下深くに位置しており、発電所の敷地から距離が離れていることから、中央構造線断層帯による地震よりも影響は小さく、地震動は181ガルと評価しています。

## さらに詳しく

伊方発電所には複数の地震計が設置されており、190ガル以上の揺れを検知した場合、直ちに制御棒が自動的に挿入され、原子炉は安全に停止します。

- ▶ 当社独自の対策として安全上重要な機器などについて、概ね1,000ガルの揺れに耐えられることを確認しています。



配管のサポート補強



代替格納容器スプレイポンプ



空冷式非常用発電装置

- ▶ 重大事故時に使用する設備として代替格納容器スプレイポンプなどを設置したほか、これらを起動するための非常用電源として、非常用ガスタービン発電機や空冷式非常用発電装置を設置しています。

本年6月に伊方発電所長に就任いたしました、古泉です。

私どもは3号機の安全・安定運転を継続していくため、これからも一人ひとりが責任感と使命感を胸に、「安全を最優先にする文化」と、これまで培ってきた「技術力」を次の世代にも確実に引き継いでいく所存です。

こうした原子力事業者としての責任と使命をしっかりと果たしながら、より良い発電所を目指してまいりますので、地域の皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



古泉所長

## 安全文化の醸成と技術継承

### 安全文化を育てていくために

- ▶ 当社経営層・幹部と発電所員との双方向コミュニケーションを充実させるため、意見交換の場を定期的に設け、安全意識の高揚を図っています。
- ▶ 日々の業務の中での気づきや改善提案を幅広く収集するしくみを構築し、改善活動を推進することで、トラブルの未然防止に努めています。



経営層・幹部と発電所員との意見交換

### 技術力を維持し、高めていくために

- ▶ 3号機一基体制となったことによる現場作業経験の減少やベテラン社員が定年退職を迎える中でも、現場の技術力を維持し、一層高めていくための取り組みを進めています。
- ▶ 原子力保安研修所(松山市)では、実際に伊方発電所で使用している機器類を用いた訓練を継続的に行っています。また本年、同研修所内に整備した「トラブルからの学び舎」では、発電所で過去に経験した設備故障やトラブルから得た教訓・知見を、次世代に継承するための研修も行っています。



「トラブルからの学び舎」での研修

## 高経年化への取り組み



国による審査の様子

- ▶ 伊方発電所では、運転開始から30年を迎えた3号機について、法令に基づき、今後10年間の運転による設備の劣化管理に必要な対策を取りまとめた長期施設管理計画を策定し、本年3月、国の認可をいただくとともに、愛媛県と伊方町へ報告しました。
- ▶ 今後は、本計画に基づき、必要な対策を行うことで、一層の安全性・信頼性の向上に努めてまいります。

